

# 教育センター通信

## ほど 火床の火の心を紡ぐ

第4号（通算第35号）  
平成28年11月2日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行

### 三条市小学校音楽祭

小学校音楽祭(10月6日～7日 中央公民館)  
写真は裏館小学校の演奏の様子



#### 「生き抜く力を育む」－防災教育を中核に育てる－

小中一貫教育推進課 統括指導主事 本多 真人

7月の新潟・福島豪雨(7.13水害)、10月の新潟県中越地震、12月からの豪雪…、平成16年は自然災害が次々と発生した年だった。平成16年生まれの子どもたちは、今、小学校6年生。度重なる災害の中、家族や地域住民等、多くの人々に助けられ支えられながら生まれ、育ってきた子どもたちだ。我が家の末っ子も豪雨災害の後に生まれた。中越地震の10月23日夜、母親に抱きかかえられ、姉たちと身を寄せ合って、下から突き上げてくる揺れに耐え、収まるのをじっと待っていた姿は忘れられない。何が起きたのか全く分からず、周囲の雰囲気から異常を感じ、ただ不安を募らせていたことだろう。その後無事に成長することができたことを本当にありがたく思う。そして、自然災害が起きないことを、また、万一起きたとしても、全ての子どもたちが生き抜けることを切に願う。

自然災害が多発する昨今、防災教育の必要性が高まっている。学校での防災教育の取組が報道される機会も多い。その内容は災害発生時や避難後の行動、避難生活についてのものがほとんどである。防災教育のねらいは「(災害を)生き抜く力」を育むことである。災害発生時や避難後、安全で適切な行動ができるようにすることはとても大切であり、欠いてはならない。しかし、それだけで「生き抜く力」は育つだろうか。否である。「生き抜く力」は子どもの「地域を愛し誇りに思う心」「人間関係づくりの能力」とかわりながら育つ。自分の住む地域の自然の恵みと災い、よりよい暮らしを求めて工夫や努力を重ねてきた先人の働きを知り、共感し、自分が住んでいる地域が好きになること。家族、友人、近所の人々等、自分の周りの人々とよりよい人間関係を構築し、「心の絆」を強化していくこと。この二つとリンクさせて育てることがポイントだ。

防災教育授業研修会でご指導、ご講演をいただいている群馬大学の片田敏孝先生、金井昌信先生は、「その地域で暮らすためのお作法を学ぶ」ことが防災教育の中核だと話されている。防災教育は子どもが人として生き方を学ぶものと言っても過言ではない。次年度の教育計画を検討する時期になってきた。子どもたちに「生き抜く力」を育む観点から教育課程を再点検する価値は高い。

## 小学校教員から学ぶ研修講座（9月29日）



佐藤亮一教諭（三条小学校）から、国語（小学2年生「お手紙」）の模擬授業を行っていたとき、その後受講者（中学校教員）と意見交換を行いました。受講者の声にもありますが、しっかりとした教材研究をもとに、準備された教材を使い、丁寧に進める授業に学ぶことが多かったという感想が聞かれました。

（写真は、国語の模擬授業の様子）

### 【受講者の声】

- ・小学校の先生方の「見とり」のていねいさは、中学校でも見習うべきところが多いと強く感じました。子どもの思考のゆらぎを見逃さないように、我々中学校でも心がけたいと思います。
- ・よく研究、準備された授業を見せていただいて、ありがとうございました。中学校教材を目にする機会はよくあるのですが、小学校教材はなかなか見られないので、よいものがあれば教えていただきたいです。今日の「お手紙」本当によかったです。
- ・文学的文章の「読み」に正解はあるのかな…と考えることができました。いかに一人一人が考え、相手に伝えることが大切かを授業で生徒に考えさせていけるかが重要だと思います。ありがとうございました。
- ・小中間で、可視化、活動の多さにギャップがあるのではないかと思います。講義式の授業にならないように気をつけたい。

## 中学校教員から学ぶ研修講座（10月12日）

佐藤典人教諭（第三中学校）から、数学（中学3年生、2次方程式）の模擬授業を行っていたとき、その後受講者（小学校教員）と意見交換を行いました。受講者の声にもありますが、中学校の授業を体験することにより、小学校段階で、中学校の授業を見据えた指導をしていくことの大切さを感じ取られた方が多くいらっしゃいました。

（写真は、数学の模擬授業の様子）



### 【受講者の声】

- ・初めて参加しました。中学校の授業での学び合いも小学校での授業で活用できると感じました。むしろ、小学校で学び合いができるようになっていけば、中学校でより質の高い学び合いが行えると思いました。時々行っていますが、日々研究しながら、子どもにとってよりよい授業（学び合い）ができるようになりたいと思いました。
- ・最近は高学年を担当することが多くなり、中学校へつなげていきたいと参加させていただきました。小学校の役割、中学校の役割の違いや共通点などをたくさん学ばせていただきました。中学校の授業展開のテンポも分かり、小学生にもそれを見据えて指導していく必要性も感じました。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・「模擬授業」という形式の研修だったため、中学校の授業を体感し、小学校と比較しながら学ぶことができました。中学3年生で2次方程式のこの授業が分かる、できる生徒にするために、小学校では何をすべきかが見えてきました。小中一貫教育の視点でのこうした研修は初めてでしたが、大変役立ちました。また、講師の佐藤先生の素晴らしい実践にも多くの刺激をいただきました。明日からの自分の授業に生かしたいと思います。

# 合理的配慮と特別支援教育

教育センター 指導主事 池田 岳康

平成28年4月1日より「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（通称：障害者差別解消法）」が施行され、公立小・中学校を含む行政機関において合理的配慮の提供が義務づけられました。今回は、学校現場における合理的配慮と特別支援教育の関係について考えていきます。

## 1 合理的配慮のねらい

合理的配慮によって目指すべきところは、障がいのある方の自由な社会参加と平等な権利の行使です。合理的配慮により学習上や生活上の困難や障がいのために生じる社会的な障壁を除去し、障がいのある子供たちの能力を最大限発揮させること、そして障がいのある人もない人もともに生きる共生社会を実現させることが目標にあります。

## 2 合理的配慮とは

上記の目的を達成するために、特定の場合によって必要とされ個別に提供される適当な変更調整であり、過度の負担を課さないものとされています。

## 3 学校現場における合理的配慮

「文部科学省所管事業分野における障害を理由とする差別の解消の推進に関する対応指針」によると小中学校において提供する合理的配慮の内容は、以下の3項目11観点に示されています。

項目	観点	
① 教育内容・方法	① -1 教育内容	①-1-1：学習上又は生活上の困難を改善克服するための配慮 ①-1-2：学習内容の変更調整
	① -2 教育方法	①-2-1：情報・コミュニケーション及び教材の配慮 ①-2-2：学習機会や体験の確保 ①-2-3：心理面・健康面の配慮
② 支援体制	②-1：専門性のある指導体制の整備 ②-2：幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮 ②-3：災害時等の支援体制の整備	
③ 施設・設備	③-1：校内環境のバリアフリー ③-2：発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮 ③-3：災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮	

例えば、学習上又は生活上の困難を改善克服するための配慮として、通級指導教室、特別支援学級や特別支援学校における特別な教育課程による教科・領域を合わせた指導、自立活動などが必要になる場合もあります。上記の場で困難克服の技能を習得しながら、本人の特性や教育的ニーズに応じ課題量を調整する、課題内容を工夫するといった学習内容の変更調整を行い集団での学習活動に参加するといったことが考えられます。つまり合理的配慮の提供と特別支援教育は、密接な関係があることが分かります。

## 4 合理的配慮提供に関する留意点

合理的配慮提供の際に必要なことは、まず提供の目的です。目的に合致しているかどうかを十分考慮する必要があります。自由な社会参加やお互いの多様性の尊重に寄与しているか考える必要があります。学習内容を変更調整し、本人が集団での学習活動に達成感や成就感を得ることが重要です。周囲の友達が集団に参加しているその子のよさを実感できることが大切です。

次に、合意形成が重要になります。保護者、本人と学校とが提供する合理的配慮について検討する、個別の指導計画や個別の教育支援計画に明記し、合理的配慮の成果をお互いに検討することが大切になります。なお、合理的配慮には、提供を求める側の意思の表明、支援者や指導者が必要と感じれば提供を働きかけることも求められています。提供を求める子の自己理解や意思表示スキルの向上、支援者の子供の実態やニーズを的確に把握する能力の向上が今後一層必要になってきます

## 「刃物・ものづくり教育」に届く児童生徒の声

「和釘をつくる」「小刀を使ってものをつくる」「鋸、鉋を使って木を切る、削る」「砥石を使って包丁を研ぐ」などの活動を通して、ものづくりに対する興味・関心を高め、その楽しさを実感してほしい。そして、三条の「ひと」や「もの」と触れ合い、関わりあう中で友達と活動することに喜びを感じたり周りの人々に感謝したりする心が育ってほしい。あわせて、ものづくりのまち三条のよさを知り、「ふるさと三条」を愛し誇りに思えるようになってほしい。こんな願いの下、スタートした今年度の「刃物・ものづくり教育」。これまで多くの子どもたちの声をいただきました。そのほんの一部から…。(※編集の関係で原文の文言を漢字表記にしてあるところがあります。)



### 《ものづくりに対する興味・関心を高め、その楽しさやすばらしさを実感する姿》

◆和釘は、最初鉄の棒なのにちゃんと釘に少しずつなっていくのがおもしろかったです。(小3・和釘)

◆和釘の四角いところがあるから洋釘と違って木に打ち付けても、洋釘は回るけど和釘は回らないの

ですごいと思いました。(小3・和釘)

◆最初親指で押すときは手が切れないかヒヤヒヤしていました。練習のときは、深く削りすぎで芯が折れて一からやり直しでした。先生がやってくれました。本番のときは、細かすぎてなかなか芯が出なくてうまく調節ができませんでした。でも、最後はちょっと慣れてきてうまくできました。終わったら親指はじんじんして痛いし、腕は伸ばすと痛くなっていたけど楽しかったです。(小3・鉛筆削り)

◆和釘はとてもじょうぶそうで便利なのが分かりました。鉄を火に入るとすごく赤くなってとても軟らかくなり、簡単に90度に曲がってびっくりしました。(小6・和釘)

◆包丁を研ぐと黒い液体が出てきたのが印象に残りました。研いでいるときも鉄臭かったです。でも、どんどんピカピカになっていくのを見て達成感がありました。親が「包丁の切れ味悪い。」と言っていたので、研げれば研ぎたいと思います。(中2・包丁研ぎ)

◆一番注意したことは研ぐ角度を一定に保つことです。研ぎ方一つで切れ味が全然違うと感じました。(中1・包丁研ぎ)

### 《職人技のすばらしさ、職人や家族、周りの人々への思いを深める姿》

◆和釘をつくっている職人さんは毎日疲れているのに1日最大200本だと聞いてビックリしました。ずっと前から「すごい人だな」と分かっていたので倍「すごいな」と改めて思いました。「よく、疲れているのに作業を続けられる人たちだな。」と思いました。三条市の歴史を守っている和釘職人さん、これからも三条市の伝統を守り

続けてください。あと、県外でも大活躍して和釘職人さん、すごいですね！よい体験をさせていただきありがとうございます。(小3・和釘)

◆初めは本当にできるか心配でした。けがをしてしまうのではないかと思いました。だけど、シルバー人材センターさんの方々がやさしく教えてくださったので、途中からはこわくなくなり楽しくなりました。さまざまなことを手伝ってくださったおかげで、最後は世界に一つだけの素敵な箸ができてうれしかったです。(小4・竹箸)

◆おじいちゃんが研いでいたのを何回か見たことがありましたが、実際に自分でやったのは初めてでした。機会があれば、おじいちゃんの代わりに研ぎたいと思います。まだまだ上手とはいえないけれども、研ぎ方を学ぶことができて本当によかったです。(中3・包丁研ぎ)



◆鋸の使い方など改めて分かりました。「墨」は半分残すなどすごく難しく、さすがプロの太工さんだなと思いました。また、太工さんが鉋で削った後の削りかすがティッシュみたいに薄くて驚きました。自分はなかなかそうもいかなかったけど、前にやったときよりも滑らかに削ることができたのでうれしかったです。(中1・木工)



### 《ものづくりのまち三条の歴史や文化を知り、そのよさに気付く姿、大切にしたいと考える姿》

◆日本の今、あまり使用されていない釘をつくれてとてもうれしかったです。階折釘やかすがい、合釘など教えてもらって和釘の種類がよく分かりました。三重県の伊勢神宮も三条の和釘

を使用していて、三条市の和釘はとてもすごいと思いました。(小3・和釘)



◆自分も学べ家の包丁も研げ、一石二鳥でした。また、このような文化を自分たちの世代が学ぶことで次の世代に伝えることもできよと思いました。ほかにも砥石や包丁の種類なども学べたため楽しかったです。少なくともどんどんやっている人が減っていると思うので、自分たちでも広げていきたいと思いました。(中1・包丁研ぎ)